

昭和56年度第1回シグマ特別専門委員会

(シグマ研究委員会) 議事録

- 日時 昭和56年6月5日(金) 11:00~17:30
- 場所 日本原子力研究所 東京本部第3会議室
- 出席者 原田吉之助(主査, 原研)
朝岡卓見(原研), 浅見 明(高エネ研), 池上栄胤(核理研)
梅沢弘一(原研), 神田幸則(九大), 菊池康之(原研)
楢山一典(東北大), 瑞慶覧篤(日立, 小林代理)
田中茂也(原研), 田村 務(原研), 塚田甲子男(日大)
中嶋龍三(法大), 西村和明(原研), 久武和夫(東工大)
弘田実弥(原研), 更田豊治郎(原研), 松延廣幸(住友原工)
山室信弘(東工大), 山本正昭(FBEC)
オブザーバ: 浅見哲夫(原研), 川合将義(NAIG)
松本純一郎(原研)
- 欠席者 安, 飯島, 大竹, 小幡, 木村, 坂本, 関, 田坂

配布資料

1. 昭和56年度シグマ特別専門委員会議題
2. 昭和56年度シグマ研究委員会名簿
3. 運営委員会議題(昭和56年以降)
4. 第5回NEA Data Bank委員会概要
5. NEACRP第23回会合
6. Meeting Planned by the IAEA/NDS
7. Specialists' Meeting on Fast Neutron Scattering on Actinide Nuclei
8. International Conference on Nuclear Data for Science and Technology, Antwerp, 6-10 Sept. 1982
9. 核データ専門部会55年度活動報告
10. 炉定数専門部会JENDL積分テストWG

11. 遮蔽定数WGの活動と成果の概要
1981年度核融合炉・遮蔽定数WGの活動について
12. JUPITER実験解析
13. Benchmark Tests of JENDL-2B(II)
14. 崩壊熱評価ワーキング・グループ報告資料
15. 大学における核データ評価活動
16. 荷電粒子核反応データ活動
17. GROGI-IVコードの作成
18. 核構造データWG

評 事

1. 主査の挨拶
2. 事務局報告
 - (1) 56年度核データセンター及びシグマ研究委員会予算(五十嵐)
 - (2) 組織・人事(田中)

本委員では宮坂氏、百田氏が辞任した以外は変更なく、専門委員は資料(2)の通りである。

組織では、本年度より炉定数専門部会の遮蔽定数WGが改組され、核融合炉・遮蔽定数WGとして発足する。本年度のシグマ研究委員会委員(本委員・専門委員)は約120名で、前年度に比べ約10名の増加である。

3. 運営委員会報告

田中氏より56年以降の運営委員会4回について、資料(3)をもとに、議事及び討論の概要について説明があった。また、五十嵐氏より補足説明として、1981年研究会の主要テーマについて、運営委でのこれまでの議論をもとに説明があった。

4. 国際会合報告

- (1) NEAデータ・バンク委員会報告(朝岡)

資料(4)をもとに、NEAデータ・バンク委員会の第5回会合の報告が

あった。データ・バンクのプログレス・レポートに対する議論，日欧共同中性子データ評価計画の検討，1982年の事業計画，予算，データバンク計算機の将来等に関する審議について説明があった。

(2) NEACRP 第23回会合報告（弘田）

資料(5)によってNEACRP 第23回会合の概要の報告ならびに NEACRP ad-hoc Working Group on Evaluation Co-ordination での評価済みデータの検討作業の進行状況の説明，Shielding Benchmark Exercises についての説明等があった。

(3) NEANDC 第22回会合報告（五十嵐）

Subcommittee での討論を中心に報告が行われた。(i) Monographs subcom. (ii) Meetings subcom. (iii) Discrepancies subcom.

(iv) Technical Activities subcom. (v) Standards subcom. それぞれについて討議の概要の説明があり，その中で今後の国際会合の予定（資料(6)，(7)，(8)），Standards subcom. で日本が ^{238}U の核分裂断面積を担当することになり，担当者として神田氏（九大）を推薦したこと，ヨーロッパ共通評価済みデータファイル作業の現状等が報告された。また，次に回の会合を日本でやって欲しいとの要請のあったことが紹介された。

(4) IFRC Subcommittee 会合（原田）

原田氏とプラズマ研の早川氏とが出席した。この会合は IAEA が行っている A & M データ活動をレビューするために開かれたこと，CIAMDA を発行したこと等の説明があった。

5. 専門部会等の活動報告及び活動計画

(1) 核データ専門部会

五十嵐氏より資料(9)をもとに核データ専門部会内の核データ評価コードWG，核融合核データWG，ガンマ線生成核データWG，FP核データWGの55年度の活動報告があった，次いでこれらWG作業のハイライトとして，ガンマ線生成核データWGで行ったGROGI-IV

コードの整備について川合氏より説明があった(資料(7))。これに関してBrink-Axel近似の取扱い、このコードの計算結果とHowertonの近似式との比較等について討論があった。

(2) 炉定数専門部会

菊池氏より、JENDL積分評価WGの55年度活動状況及び56年度計画について説明があった(資料(10))。また、JENDL-2Bのベンチマーク・テストの一環として行ったJUPITER実験解析の説明があった(資料(12),(13))。次いで、遮蔽定数WGの過去3年間の活動の概要(資料(11))、ならびに核融合炉、遮蔽定数WGが発足するに至った経緯及びその56年度作業計画等について説明があった。その中でFe体系の透過スペクトルの解析に関する結果が紹介された。

これらの説明に対して、JENDL-2Bの名称は利用者側で混乱をおこす恐れがあるとの指摘、ベンチマークテストにおける解析法及びファイルの処理の問題についての討論、DDX作業の進め方についての質問等があった。

(3) 核構造・崩壊データ専門部会

久武氏より、専門部会内の核構造データWG(資料(14))、燃料サイクル核データWG、崩壊熱評価WGの概要について説明があった。引き続いて、その中のトピックスとして西村氏より燃料サイクル核データWGで行われた燃料サイクルに必要な核データの種類及びデータの現状に関する調査について説明があった。次いで、中嶋氏より資料(14)により崩壊熱評価WGで行った崩壊熱計算の最近の結果と実験値との比較について説明があった。

(4) 医学用核・原子分子データの ad-hoc 委員会

原田氏より、この ad-hoc 委員会の発足の経緯の説明ならびに現在、リクエスト調査のための作業を開始したことの報告があった。

6. 大学を中心とした核データ活動

(1) 京大炉原子力科学情報センター関係

神田氏より資料(15)にもとづき、大学における核データ評価活動の現状、今後の課題、53-55年度の短期研究会の概要等について説明があった。その中で、科学研究費による活動で核融合炉関係として材料及びドシメトリ-用核データのDDXデータの収集を行っていること、また、評価結果の管理が重要であること等の話があった、また、山室氏より補足説明として、大学での核データ評価活動が困難であること及び「核データ評価学」が成立しつつあることの話があった。

これらに関し、核データ活動をいかに評価してもらうか等について議論が行われた。

(2) 核データ小委員会

原田氏から資料(16)により日本での荷電粒子核反応データに関する活動の概要について説明があった。

なお、議題に挙げられていた「JENDL-3計画」の話は、時間の都合で中止することにした。